

わたしの涙

～愛を綴るイタリアの古歌～

クレール・ルフィリアートル(ソプラノ)

上村かおり(ヴィオラ・ダ・ガンバ)

西山まりえ(バロック・ハープ)



<Program>

- G. カッチーニ: 一日中涙に暮れて
- G. カッチーニ: 天にこれほどの光はなく
- B. カスタルディ: 誰が私に喜びと幸せを見出そうか
- G. フレスコバルディ: このように私を蔑むのか
- T. メールラ: そう信じてしまう愚かな人
- B. ストロツィ: わたしの涙
- D. ベッリ: 不幸な男が打ち明ける
- S. ランディ: 人生のパッサカリア
- B. デ・セルマ: 『騎士の歌』のファンタシア

ほか

"The Rape of Europa" by Guido Reni (The National Gallery, London)

2025年5月10日(土)

① 開演13:00(開場12:30) ② 開演16:00(開場15:30)
各公演70分休憩なし、同一プログラム

今井館聖書講堂 文京区本駒込6-11-1

主催: ムジカキアラ

後援: 日本ヴィオラ・ダ・ガンバ協会 日本ハープ協会

<チケット料金(全席自由・税込)>

一般5,000円 学生2,000円 ※ムジカキアラのみ取扱

<ご予約・お問い合わせ>

ムジカキアラ 03-6431-8186(平日10:00-18:00)
info@musicachiara.com

<プレイガイド>

イープラス



ひとは愛を知れば期待と不安が入り混じり、喜びはいつか涙へとうつりゆく。

《ル・ポエム・アルモニーク》をはじめ数々のアンサンブルと共演する、フランス・バロック界のカリスマ、クレール・ルフィリアートル。彼女が得意とするイタリアのアリアとカンタータで綴る愛の歌。

共演は、ブリュッセル王立音楽院講師を務め、世界中のバロック・アンサンブルと共演を重ねる

実力派ヴィオラ・ダ・ガンバの上村かおり、そしてチェンバロと歴史的・ハープ2種の古楽器を自在に操り、日本の古楽界を牽引する西山まりえ。

3人の名手が集い奏でる『愛を綴るイタリアの古歌』をお楽しみください。

<プログラム>

G. カッチーニ：一日中涙に暮れて Giulio Caccini: Tutto il di piango / 天にこれほどの光はなく Non ha'l ciel cotanti lumi

B. カスタルディ：誰が私に喜びと幸せを見出そうか Bellerofonte Castardi: Chi vidde più lieto e felice di me

G. フレスコバルディ：このように私を蔑むのか Girolamo Frescobaldi: Così mi disprezzate

T. メールラ：そう信じてしまう愚かな人 Tarquinio Merula: Folle è ben che si crede

B. ストロツィ：わたしの涙 Barbara Strozzi: Lagrime mie

D. ベッリ：不幸な男が打ち明ける Domenico Belli: Apre l'huomo infelice

S. ランディ：人生のパスサカリア Stefano Landi: Passacaglia della Vita

B. デ・セルマ：『騎士の歌』のファンタジア Bartolomeo de Selma: Fantasia sobre el Canto del Caballero

ほか



©Sebastien Brohier

クレール・ルフィリアートル(ソプラノ) Claire Lefilliatre, Soprano

カンのコンセルヴァトワールにてディプロマを得た後、バロック時代の歌と表現の魅力に強く惹かれ、歌をアラン・ビュエ、ヴァレリー・ギヨリ、そしてバロックの朗唱法と表現法(ジェスチャー)をウージェンス・グリーン、バンジヤマン・ラザールの下で確立する。身体と声との関わり方の重要さへの思いから、パリの国立アレキサンダーテクニクセンター(Centre de Formation Technique Alexander)ディプロマコースでアニエス・ブリュノフに師事する。ル・ポエム・アルモニークをはじめとし、数多くのアンサンブルと共演。オペラ、歌曲にとどまらず、型にはまらない新しいプロジェクトを生み出すなど、名実ともにフランスバロック界を代表するカリスマ的存在である。また、教育への強い情熱を持ち、世界各地でマスタークラスを行い、受講者からの信望も厚い。日本にも数回来日しており、その心に響く歌唱力で、ファンも数多い。



©ATSUKO ITOYE / LASHI

上村かおり(ヴィオラ・ダ・ガンバ) Kaori Uemura, Viola da gamba

彼女のガンバ人生はすでに長い。12才でヴィオラ・ダ・ガンバに出会い、ガンバから離れられずに結局、東京の上野学園で(大橋敏成に師事)さらにブリュッセル王立音楽院(ヴィーラント・クイケンに師事)で勉強した。その後拠点をブリュッセルに置いたまま、ガンバ奏者として現在に至るまで全ヨーロッパ、南北アメリカ、オーストラリア、アジアで演奏録音活動をしている。大学時代に、またその後多くの師たちから、ガンバ奏者としての膨大な基礎を習えたこと、そして情熱ある仲間たちとの実践から経験を積むことができたことは、幸運であった。おしゃべりな気質も相まって、世界中の多くのアンサンブルに携わってきたが、ソロCDを録音して、自分軸と一致する新たな境地を開拓中。ブリュッセル王立音楽院講師。



©ATSUKO ITOYE / LASHI

西山まりえ(バロック・ハープ) Marie Nishiyama, Baroque Harp

チェンバロと歴史的・ハープ、2種の古楽器を操る。ルネ・ヤコブス、ボブ・ヤング、パディ・モローニ、カルロス・ヌニェス、ミカラ・ペトリ、山下洋輔、藤原道山、森山開次など、幅広いジャンルに渡るアーティストとの共演も多い。王子ホール主催「銀座ぶらっとコンサート・西山まりえの歴女楽」シリーズ出演。新日本フィルハーモニー交響楽団「バッハ：ブランデンブルク協奏曲・全曲」ソリスト。IDホールディングス主催「The J.S. バッハ演奏会：ブランデンブルク協奏曲」ソリスト。国内外レーベルでの録音はその多くが「レコード芸術」誌特選盤や朝日新聞推薦盤に選ばれるなど高く評価されている。東京音楽大学ピアノ科卒業、同大学研究科修了後、ミラノ市立音楽院、バーゼル・スコラ・カントールムに留学。第11回山梨古楽コンクール・チェンバロ部門第1位、および栃木[蔵の街]音楽祭賞受賞。日本ハープ協会運営委員。日本演奏連盟会員。日本チェンバロ協会会員。「信州アーリーミュージック村音楽祭」芸術監督。武蔵野音楽大学非常勤講師。

